

2年 英語 “Bikkuri” around the world (Unit4)

1 単元構想文

単元目標

- ・ have to や must を用いた表現を理解し、日本と諸外国の習慣の違いについて尋ねたりまとめたりする中で正しく使うことができる (知識・技能)
- ・ have to や must, 既習の表現を正しく使いながら ALT に質問したり、外国の習慣を紹介する英文を作って相手にわかりやすく伝えたりすることができる (思考・判断・表現)
- ・ 日本と外国の習慣の違いを自ら追究して理解することで、視野を広げ、新たな考え方を受け入れようとする (主体的に学習に取り組む態度)

単元について (下線: 主なてでて)

本学級の生徒は、ペアやグループでの活動に意欲的に取り組むことができる。その中でも、話す活動を多く含む ALT との授業では、まちがいを恐れずに言語活動をしようとする生徒が多い。日本の観光地を紹介するペアでの発表では、タブレットを活用しながら協力して英文を完成させる姿が見られた。特に、英語を話すことや書くことに対して苦手意識をもっている生徒が、発表する場所やどのような内容を伝えるかを提案するなど、ペアでの活動に積極的に取り組んでいた点が印象的である。また、6月に学習した食文化に関する単元では、外国の料理に興味を示し、昔の日本人シェフがその料理を日本人好みに変えて取り入れた経緯に興味深く学んでいた。実際に外国へ行ったり、外国のかたとコミュニケーションをしたりする機会は多くはないが、生徒は外国の文化や習慣に関心を示すと感じた。そこで、日本と諸外国のさまざまな習慣の違いを知る活動を通して生徒が外国に興味をもち、日本のよさを改めて確認するとともに、新たな視野や考え方を得ることを期待したい。

本単元では、教科書のアメリカでのホームステイに関する内容から、習慣の違いに気づき、日本と外国との生活習慣の違いを追究していく。単元の導入が本校 ALT の出身地アメリカであり、ALT に親しみのある生徒にとって、ALT が日本の学校生活で驚いたことなどを話すことは、身近に感じられ、意欲的に取り組むきっかけとなるだろう。また、日本と外国を比較することで、各国の習慣を伝え合う際に have to などを使い、”In America, we have to keep the bathroom door open when we are not using it. But in Japan, ~”などと表現することで文法の定着につながる。更に、クラス内にさまざまな国について追究するグループがいることで、国によって習慣が違うことを認識し、世界中の人々とともに暮らすヒントを得ることができ、生徒が新たな発見や視野の広がりを感じるのに適した教材であると考えられる。

見いだす段階では、はじめに、教科書の内容に関連して、アメリカと日本の生活習慣の違いについて調べる場を設定する。教科書に記載されている違いだけでなく、他にもさまざまな違いがあることに気づくだろう。そこで、アメリカ出身の本校 ALT の話を聞き、アメリカでの食習慣などを疑似体験させる。私たち日本人がふだんにげなく行っている「食事の前に「いただきます」と言うこと」や「食器を持って食べること」などがアメリカでは習慣化されていないことを感じるだろう。また、この ALT の話から、生徒がアメリカ以外の国にも目を向け「日本と世界の国々はどんな生活習慣の違いがあるのか」という問いをもつようになる。解き明かす段階では、前時の体験によって、改めて日本の習慣を確認しようとする生徒の考えを取り上げ、全員で確認する場を設定する。そうすることで日本と外国を比較して捉えることができるだろう。日本の習慣が世界共通ではないことを再確認したり、日本では普通に行われている行為が、海外では失礼にあたる場合があることに気づいたりする生徒もいるだろう。日本以外の国での暮らしについては、テレビやインターネットなどのメディアを通して見聞きしたことがあり知っていることもあるが、実際に経験したことがある生徒は少ないと思われる。そこで、それらの内容が事実であるかを確かめ、より詳細な情報やリアルな経験談を得ることを目的として、さまざまな国出身の ALT に尋ねる場を設定する。本学級のよさのひとつである ALT との授業に対する積極性を生かし、既習の表現を正しく使って意欲的に英語で話す姿を期待する。その後、インターネットや ALT へのインタビューで追究してきた内容を項目ごとに表にして板書する。そうすることでそれまでに調べられなかった新たな項目を調べ始め、更にその国に関する知識が広がるだろう。動きだす段階では、追究した生活習慣について友達や ALT に伝え合う場を設定する。それらをまとめたものを提示しながら伝えることで、新たな視野や考え方を共有する機会としたい。国ごとに習慣の違いがあることを知ったうえで、今の私たちにできることを考え、それぞれの思いをもって行動に移そうとする姿を期待したい。また、これからの生活の中で外国のかたと関わる際には、その国の習慣や文化を理解して相手を尊重し、多様な考えを受け入れる姿勢でコミュニケーションをする生徒であってほしいと願う。

2 単元構想図

単元前の生徒の姿

実際に外国を訪れたり、外国のかたと一緒に生活したりすることで習慣の違いを体験したことがある生徒はほとんどいない。教科書から学ぶ内容や教師の外国での経験談などは興味深く聞く様子が見られるが、外国での文化や習慣に関する知識などを自ら調べ、知識を得ようとする生徒は少ない

身につけさせたい3つの力

- ・アメリカの習慣について知り、日本と外国の生活習慣の違いにはどのようなものがあるか疑問をもち、追究を始めることができる (問いを生む力)
- ・外国の生活習慣を追究することを通して、日本の習慣と比較しながら、自ら調べたりインタビューしたりするなど、自分の考えを再構築することができる (考えを深める力)
- ・これからの生活の中で、外国の生活習慣に対する理解を示し、相手を尊重する姿勢で物事を考えようとする (学びを行動に移す力)

難	生徒の思い・考え	力を高めるためのてだて
見 い だ す 段 階	<p>アメリカと日本はいろいろな習慣の違いがあるのかな①②A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂に浸からないことは聞いたことがあるけど、シャワーの時間も短いんだね ・食事の量が違うみたいだから、同じLサイズの商品でも量が全然違うのかな 	<p>A: (浸り場: 問いを生む力) 更に習慣の違いを感じられるように、タブレットを使って、アメリカの家庭での生活に関わる習慣を調べる場を設定する</p>
	<p>外国のかたは生活習慣の違いで、困ったりとまどったりするのかな③B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそ汁やスープのお椀に口をつけて飲むのは、日本の習慣なのかな ・アメリカの学校では、生徒が掃除をせず、清掃員を雇っているみたいだよ ・アメリカ以外の国でも食に関する習慣の違いがあるのかな 	<p>B: (着火: 問いを生む力) 習慣の違いをより感じられるように、アメリカ出身の本校 ALT の話を聞き、食事の習慣などを疑似体験する</p>
	<p>【問題】他の国の生活習慣も知りたいな④⑤⑥⑦⑧CDE</p>	<p>C: (浸り場: 考えを深める力) 外国と比較して考えられるように日本の習慣も調べるよう促す</p> <p>D: (浸り場: 考えを深める力) 外国の習慣に関する詳細な情報やリアルな体験談を得るために、さまざまな出身地の ALT に尋ねる機会を設ける</p> <p>E: (着火: 考えを深める力) 追究してきた習慣と違う項目に気づけるように、表にして可視化する</p>
解 き 明 か す 段 階	<p>(日本の習慣を再確認する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器の配置のルールや、箸の使い方に関するマナーがたくさんあるね ・玄関で靴を脱いで家に入ることも日本の習慣だよ ・生徒が自分用の教科書をもらうことは、日本ではあたりまえだね 	<p>C: (浸り場: 考えを深める力) 外国と比較して考えられるように日本の習慣も調べるよう促す</p> <p>D: (浸り場: 考えを深める力) 外国の習慣に関する詳細な情報やリアルな体験談を得るために、さまざまな出身地の ALT に尋ねる機会を設ける</p> <p>E: (着火: 考えを深める力) 追究してきた習慣と違う項目に気づけるように、表にして可視化する</p>
	<p>(さまざまな出身地の ALT に尋ねる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の習慣は”have to”を使えば言えるね。”How about~?”で尋ねれば他の国のことが聞けるかな ・フィリピンの学校では10時と3時に軽食を食べる時間があるみたいだよ ・インターネットでは調べられなかった細かいことまで聞くことができたね <p>(他のグループが調べた習慣を聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスルームのドアを開けたままにするのは欧米だけの習慣かな ・日本では残さず食べるけど、イギリスでは少し残す方がいいんだね ・オーストラリアには指定された教科書がないと言っていたね 	<p>C: (浸り場: 考えを深める力) 外国と比較して考えられるように日本の習慣も調べるよう促す</p> <p>D: (浸り場: 考えを深める力) 外国の習慣に関する詳細な情報やリアルな体験談を得るために、さまざまな出身地の ALT に尋ねる機会を設ける</p> <p>E: (着火: 考えを深める力) 追究してきた習慣と違う項目に気づけるように、表にして可視化する</p>
動 き だ す 段 階	<p>家庭や学校での生活の違いをたくさん知ることができたよ 今の私たちに何ができるだろうか ⑨⑩⑪F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの国際試合の後に「日本人がゴミ拾いをしていた」というニュースが話題となって、外国でも広まっているみたいだよ ・オーストラリア出身の ALT のかたに、日本以外の習慣も知ってほしい ・アメリカの習慣をイギリスの人に伝えるとか、外国間も習慣の違いを知る必要があるのかもしれない ・韓国やブラジルなど、他の国にはまた違う習慣がありそうだから、もっと知りたいな 	<p>F: (浸り場: 学びを行動に移す力) 新たな視野や考え方を共有するために、調べた内容と追究活動を通して考えたことを、仲間や ALT に伝える場を設定する</p>

未来を創造しよう動き出す生徒の姿

日本と諸外国の習慣の違いを理解することで、多様な考え方を受け入れようとする。また、身近にいる外国のかたとコミュニケーションする際には、相手を尊重する姿勢で臨む姿が見られる

3 見いだす段階のてだて(浸り場・着火)と生徒の問題意識の高まりについて

単元前の生徒 a の姿

- ・英語学習に意欲的で、授業の様子や教師、友達に質問する姿から、文法や語彙の知識を増やしたいという思いが感じられる
- ・外国での生活や文化等の知識は少なく、異文化に対して興味をもっていない
- ・全体の場で英語を発することにやや抵抗を感じている

単元の導入では、教科書の内容をきっかけに、アメリカの家庭生活について調べる場を設定した(てだてA:浸り場)。生徒 a はタブレットを使って日本との違いを調べており、「日本ではあたりまえにやっていたことなのに、アメリカではやっではいけないということがたくさんあった」と話した。また、それらの違いを「おもしろかった」「(食事のマナーに関して)アメリカに行ったら本当にそうやって食べていいのかな」と記述していたことから、異文化におもしろさを感じ始め、自分事として捉えようとしていた。そこで、アメリカ出身の本校ALTの話聞いて質問し、異文化を疑似体験する活動を行った(てだてB:着火)。すると、アメリカの学校で惹かれる部分があり、生徒 a は「アメリカに行ってみよう」と記述した。また、食事のマナーの疑似体験では、日本と違うことから食べにくさを体感した。その授業の振り返りには、「アメリカと日本は違うことがたくさんあり、他の国の習慣や文化も調べてみたいと思った」と記述し、異文化への興味を高めることができた。

4 解き明かす段階の2つのてだて(浸り場・着火)の検証

(1) 浸り場のてだてについて

見いだす段階での生徒 a の姿

- ・家庭や学校生活でのアメリカと日本の違いを「おもしろい」と感じ始めた
- ・「他の国も調べてみたい」という思いをもっている

てだてD(浸り場:考えを深める力)

- ・外国の習慣に関する詳細な情報やリアルな体験談を得るために、さまざまな出身地のALTに尋ねる機会を設ける

第3時の本校ALTの話聞き、食事のマナーを疑似体験したことをきっかけに、生徒たちが「他の国もアメリカと日本のように違うことがあるのだろうか」という問いをもったため、アメリカ以外の国の習慣や文化について個人追究を始めた。生徒 a はカナダを調べた。アメリカの学校生活に興味を抱いたこともあり、カナダも学校生活を中心に調べた。日本よりも自由な部分が多いことがわかり、「日本ではありえないことなので驚いた」と記述した。

生徒 a 同様、イギリスを調べた他の生徒も、インターネットを使って調べた情報には信じ難いことが多かったようであった。そこで、さまざまな出身地のALTに直接尋ねる機会を設けた(てだてD:浸り場)。そのために、同じ国を調べた生徒同士で情報を共有し、質問を考えた。英文を考えることが苦手な生徒 a も、友達に尋ね、教えてもらいながら自分が質問する英文を作成した。カナダ出身のALTと対話する際には、英語があまり得意ではない生徒 a はしっかりと目を見て返答を聞き取ろうとしていた。また、事前に考えた学校生活に関する質問(Is that true there is a lot of school homework?)をすることができた。生徒 a のグループは、ALTから「なぜ日本の生徒は授業後にそんなに忙しいのか」と問われる場面があり、生徒が調べていな

生徒 a : Is that true there is a lot of school homework?
 ALT : Hmm... I don't think too much. Maybe I think you have too much homework than Canadian students.
 生徒 a : (メモをとる)
 ALT : Do you think is there a lot of homework for you?
 生徒 b : I don't think too much, but there are too much during the test week.
 生徒 a : Test week? Yes, many homework. (うなずく)
 ALT : After school, you go to juku, right? Japanese students are too busy after school. Why? Canadian students can do what they like.
 生徒 b : To enter the high school ...? I think.

【資料1】ALTと対話する生徒 a のグループの授業記録

6月17日は3月27日と17日と17日は同じ日か? 答えが...
 4月17日は...先生のほうから話をして...
 17日は...
 17日は...
 17日は...
 17日は...

【資料2】ALTと対話した授業の生徒 a の振り返り

かった内容についても知ることができた【資料1】。直接カナダ出身のALTと話したことを通して、生徒aは「びっくりするときもあり、カナダのことがよくわかりました」と記述した【資料2】。この記述から、生徒aがインターネットで調べた内容を確認し、更に詳細な知識を得ることができ、異国の習慣や文化に対する知識を深められたことが読み取れるので、てだてDは有効であったと言える。

(2) 着火のてだてについて

教材に浸った生徒aの姿

- ・家庭や学校生活におけるカナダの習慣や文化を調べ、直接カナダ出身のALTと対話したこと、日本との違いに驚きを感じている

てだてE(着火:考えを深める力)

- ・追究してきた習慣と違う習慣にも目が向くように、表にして可視化することで、更に追究する活動へとつなげる

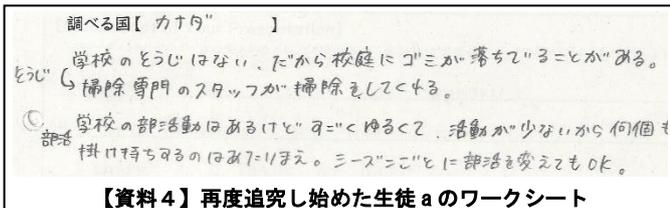


第7時では、これまでに追究してきた日本と外国の習慣や文化の違いを出し合い、表にして可視化した(てだてE:着火)【資料3】。どの国においても、食事に関する同じ習慣を調べていることが明らかになったり、学校生活での昼食に関することや部活動に関することを調べていなかったりしたことがわかるなど、表にして板書したことで追究活動において足りない部分に気づくことができた。



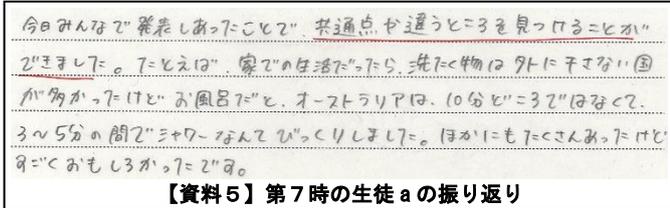
【資料3】個人追究を出し合う授業の様子

生徒aは板書を見て、学校生活での掃除と部活動に関することを調べられていなかったことに気づき、調べ直した【資料4】。その中でも、季節ごとに部活動を選択できる制度に興味をもち、「日本の学校もそうしたら喜ぶ人が多いと思う。水泳をやっている人が冬は違う部活をするとか」と述べた。



【資料4】再度追究し始めた生徒aのワークシート

表にして板書をしたことで、生徒aは「共通点や違うところを見つけることができました」と記述し【資料5】、まだ自分が調べられていないことに気づいて、その内容を追究し始めた。この記述から、生徒aがそれまで追究してきた習慣と違う項目に気づくことができたことが読み取れる。よって、てだてEは有効であったと考えられる。



【資料5】第7時の生徒aの振り返り

5 動きだす段階のてだて(浸り場)と未来を創造しようと動きだす生徒の姿について

単元の終末に、調べた内容と追究活動を通して考えたことを、仲間やALTに伝える活動を行った(てだてF)。生徒aは自分が調べたカナダ以外の習慣や文化を聞き、「日本と違う生活はすごく楽しそうだと思ったので、外国に行って違う生活をしてみたいと思った」と振り返りに書いた。その後、他の国を調べたグループの”It is important to understand each other.”という言葉を受け、”What can we do to understand each other?”と教師が発問した。生徒aは「言葉が通じなくても人の話を最後まで聞いたりお互いの生活文化を伝え合ったりすることが大切」と書いた。生徒aの中で、自分が外国について知ることの大切さだけでなく、日本の文化も知ってもらう必要があると考えていることがわかる。他の生徒も、「日本の文化や習慣を外国のかたに伝える」「私たちが調べたことを他の日本人にも伝える」などと記述しており、本単元を通して、生徒たちは、互いに異文化を知る必要があると考えたり、そのために発信したりしようと、動き始める姿が見られた。

未来を創造しようと動きだす生徒aの姿

- ・各国の生活習慣や文化を知り、「言葉が通じなくても人の話を最後まで聞いたり、お互いの生活文化を伝え合ったりすることが大切」という思いをもつことができた